

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）

「 HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制に関する研究」

令和元年度 分担研究報告書

【研究分担課題名】日本在住 MSM の PrEP（曝露前予防）に関する意識や行動に関する研究

研究分担者：生島 嗣（特定非営利活動法人ぶれいす東京・代表）

研究協力者：山口正純（武南病院、ぶれいす東京）、三輪岳史（ぶれいす東京）

研究要旨

研究要旨：わが国の MSM における PrEP に関する認知度、ニーズを調査するため、MSM 向けインターネットサイトを介して大規模調査を実施する。また国内の MSM に訴求性の高い PrEP 啓発資材を参考として調査収集する。また利用者が受け入れ可能な費用負担額を調べることにより、わが国で PrEP を導入した場合の費用対効果の分析に資する知見を得る。

A．研究目的

本分担研究では、日本の MSM コミュニティを対象とした PrEP の認知度、利用意向性、課題等に関する意識調査を実施し、日本の MSM コミュニティで PrEP プログラムを導入するにあたり必要となる医療サービスの提供体制や、医療・カウンセリング等の提供に必要な人的資源、コミュニティに訴求性の高い啓発資材等に関するニーズを明らかにすることを目的とする。

B．研究方法

本研究では、文献調査で得た情報を参考に作成した質問紙を用い、MSM を対象とした無記名自記式アンケート調査を行った。アンケート調査は、MSM 向けの GPS 機能付き出会い系アプリの利用者を対象として実施した。

C．研究結果

大規模インターネット調査の結果として、回答開始者は 6,467 人で、そのうち矛盾回答者等の 220 人を除いた 6,247 人を解析対象とした。PrEP の薬が日本で入手可能になったら使いたい、という質問に対して、「とても使いたい」あるいは「まあ使いたい」と回答している人は 69.3%（3147/4542）であり、20.4%（926/4542）は「わからない」と回答した。日本でも PrEP を導入するべきだと思うか、という質問に対して、「とてもそう思う」あるいは「まあそう思う」と回答している人は 86.1%（3905/4538）、「わからない」と回答している

人は 10.6%（482/4538）であった。PrEP の予算について、1 ヶ月 5,000 円以上払えると回答した人は 46.0%（2073/4503）であった。PrEP を知っている人のうち、「過去に飲んだことがある」あるいは「現在飲んでいる」人は 6.8%（116/1716）であり、入手方法は「インターネットで購入」が 64.6%（73/113）で最も多かった。また、PrEP 使用者の 54.4%（62/114）は定期的な医師の診察を受けていなかった。

D．考察

PrEP の使用意思に関して、約 7 割が使いたいと感じており、8 割以上が日本でも PrEP を導入すべきと思っていることが明らかになった。また、PrEP 使用者の内、約 4 割は医師の診察を全く受けておらず、約 11%は受けたいが場所が見つからないと回答しており、国内の PrEP の環境整備が必要であることが示唆された。

E．結論

わが国の MSM コミュニティを対象としたニーズ調査を実施することは、PrEP の実現可能性、利用可能性、費用負担可能性等を検討するために極めて重要であり、今後 PrEP プログラムの日本導入を検討するために必要不可欠である。

G．研究発表、H．知的財産権の出願・登録状況なし